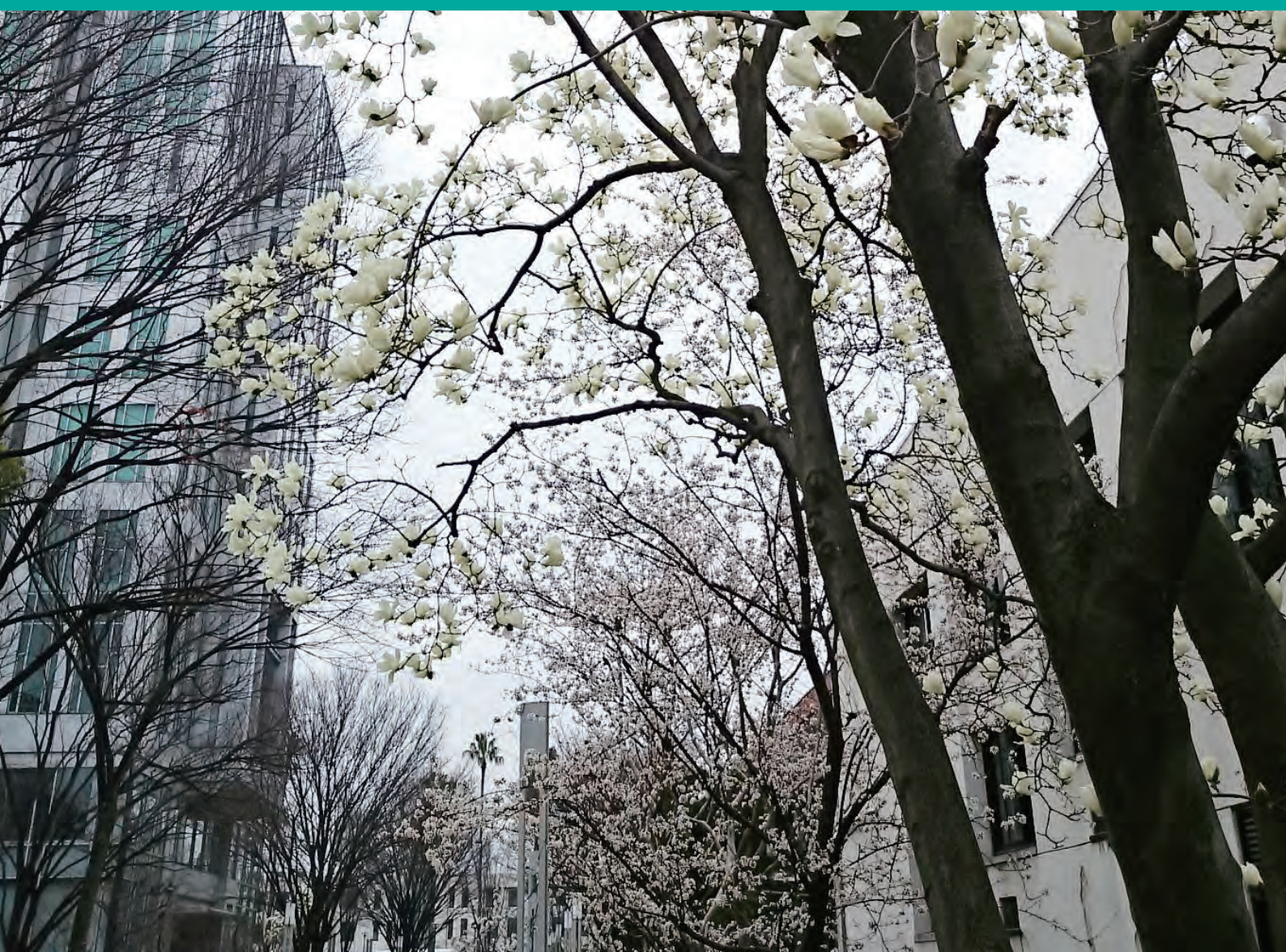


会報

2

2015.6



大阪市立大学工学部都市会

建設業界ちょっと明るい話

都市会副会長

原 田 祐 司

(昭和55年卒 戸田建設(株)勤務)



目にも鮮やかな新緑の季節となりました。都市会々員の皆様におかれましては、如何お過ごしでしょうか。ゴールデンウィークも終わり、再度ねじを巻いて業務に励まれている事と存じます。またこの春に我が母校を卒業・修了され社会人一年生（新会員）になられた方々、新天地で希望と不安が交互するような日々でしょうが、どうぞ市大卒業生として頑張っていたいただければと期待いたします。

私は昨年、都市会発足と同時に副会長に任命されました、昭和55年卒の原田です。微力ながら精一杯勤めさせて頂きます。ご挨拶にあたり卒業以来建設業に勤めている目線で若い技術者の方々に向け、建設産業に明るい未来があるのだと一言述べさせて頂きます。

昭和50年に入学、当時定員40名、6つの研究室がありそれぞれに教授、講師、助手2名という今では考えられない教員の構成で、4回生の河海工学研究室（小田教授）ではマンツーマンで卒業研究の指導をして頂きました。マンモス校では考えられないアットホームな研究室での一年間を送らせていただきました。研究テーマは「波圧算定式の比較検討（永井式と合田式）」ですが実際は100m水槽を日々清掃していた思い出が残っています。実験モデルは和歌山県御坊市に計画中であった護岸の設計に反映され、現在も発電所を波浪から護っている事実、少しは役に立てたのかなあと感じています。

昭和55年3月に卒業、オイルショックから数年たち再度企業の求人意欲が高まっていた頃で、運よく戸田建設に就職しました。日本国有鉄道の現場に始まり、鉄道関連の工事を主に経験しました。大

学で河海を教わりながら実務で何ら活用はしていないのは申し訳ないなと少し感じながら勤めていました。その後営業部門への配置転換があり、現在土木工事の受注が役割です。営業職でずっと関西圏勤務でしたので同級生の会の世話役や、同窓会に顔を出すようになり、この度の大役を仰せつかった次第です。

建設業界もここ十年で様変わりし、技術力や会社としての総合力が問われる時代となりました。以前は業界序列というのが存在しており、看板となるような事業に準大手にランクされる弊社が参画する事は困難でした。現在は会社規模（売上、社員数等）の順位に関係なく、ビッグプロジェクトにも挑戦できますし、様々な会社が大きな仕事を受注しています。会社同士の競争ですから厳しい日常ですが、それ故やりがいが増幅した面もあり社員のモチベーションが向上したと思います。どうぞ若い技術者の方々、建設会社も施工管理だけではなく営業や技術開発と活躍の場が増えておりますので、魅力を感じていただき是非建設業への就職をお考え下さい。

一時はコンクリートから人への政策により、公共工事は費用対効果が低いとマイナスのレッテルが貼られていましたが、その後東北大震災や広島土砂災害の非常に痛ましい天災が次々に発生しました。自然の力に打ち勝つ事はできませんが、被害をより少なくする事はできます。私は先のスローガンとは逆に、人からコンクリート、人の命・生活を守るためにはコンクリート（土木技術）が必要と考えています。ここ数年国土を守る重要性が見直され公共事業への予算配分がなされています。かの武田信玄も信玄堤によ

り治水事業を行い、甲斐の農民の生命・財産を守ったのですから、国土強靱化が皆様の幸せにつながるものは間違いありませんでしょう。

建設業は、東日本大震災の復旧、東京オリンピック関連事業、はたまた、リニア中央新幹線（関西圏でないのは寂しいですが）着工と活況を呈しています。また、民間設備投資も回復基調、新たな土地開発計画も出てきています。各高速道路会社は大規模改修をして基幹道路網を守る使命がありますし、地方自治体では財政難で見送られていたゲリラ豪雨対策の事業が推進されています。建設会社に勤める立場から、いいことばかり書いていると思われるかもしれませんが、市民生活を守りより住みやすい街づくりのため、我々土木技術者への要求が高まっています。

3K業界だと言われ若い方の建設業離れが続いていますが、社会に必要で明るい産業である事がお分かりいただけたでしょうか。新生都市会が発足して一年が過ぎました。三つの同窓会が合体した事により、これから社会に出る若い技術者も継続して同窓会に参加する組織となりました。これからは社会基盤整備を担う都市会の方々です。社会のどこかでつながりが出てくる事があります。是非、都市会規約目的で掲げられている会員相互の研鑽と親睦を図り都市会を盛り上げてまいりましょう。皆様の更なるご協力と共にご健勝をお祈り申し上げます。

都市学科の近況

平成27年度学科主任

内田 敬



都市会会員の皆様には、学外実習の受入、業界説明会の実施や、新入生歓迎会等へのご支援など、都市学科の学生の活動に多面的なご支援を賜り、心からお礼を申し上げます。早いもので、2009年（平成21年）4月に開設された都市学科も、この3月には第3期生の学部卒業、第1期生の前期博士課程（修士）修了を祝いました。そして4月には第7期生54名を迎えることができました。ひとえに先輩方のご支援の賜物と感謝申し上げます。

平成26年度の学部卒業生45名の進路は、大学院前期博士課程都市系専攻へ29名が進学し、16名が就職して社会へ羽ばたきました。就職先の内訳は、公務員4名、民間企業12名であり、例年に比べて公務員が半分程度と少なく、民間企業については建設コンサルタント業が5名と目立っています。この特徴は、建設業界の人手不足を背景とする就職市場の売り手優位かつ早期内々定が反映していると思われる。現在就職活動中の平成28年3月卒業予定者に関しては、いわゆる就職協定の変更によって民間企業の採用選考スケジュールが後ろ倒しされた結果、前年のように公務員試験時期までに民間企業がほぼ全て決まるという状況ではないため、一昨年までの状況と同じく公務員志願者と民間企業志願者がほぼ同数で推移しています。

都市会の学生会員である前期博士課程学生の進路は、平成26年度修了生19名のうち、公務員は1名、民間企業が18名です。公務員が極めて少ないのは、学部卒業生と同じく民間企業の採用選考スケ

ジュールが極めて早かったためです。民間企業の業界分布は、ゼネコン、建設コンサルタント、機械・設備メーカーなどであり、専門性が活かせる企業・職に採用されています。

大学院の後期博士課程（都市学講座）においては、平成26年度は5名が博士（工学）の学位を授与されました：

- 平成26年9月、三毛正仁氏（主査：西岡准教授）：「下水管網を活用した下水熱利用システムの省エネルギー効果及び熱需給からみた導入可能性に関する研究」
- 平成26年9月、潘超氏（主査：山口教授）：「高力ボルト当て板要素を用いた疲労亀裂の応急補修法に関する基礎的研究」
- 平成27年3月、高井俊和氏（主査：山口教授）：「各種不確定要因を考慮した鋼橋の高力ボルト摩擦接合継手の強度特性に関する研究」
- 平成27年3月、田畑晶子氏（主査：山口教授）：「高耐久な鋼橋部材接合部の開発に関する研究」
- 平成27年3月、恩地啓実氏（主査：矢持教授）：「*AyuPlecoglossus altivelis altivelis*の生残と行動に及ぼす遊離アンモニアとクロミランの影響に関する研究」

学生（主に博士前期課程学生）による研究・活動成果の学会等での発表は、平成26年度も極めて活発で、多数の受賞に結実しました。以下にそのいくつかを記します（学年は受賞時）：

- 土木学会関西支部年次学術講演会・優秀発表賞：有村大地君（M1）、湯山愛美さん（2014卒）、杉本匡章君（M1）、西尾直人君（M1）、森本真司君（M1）、高山武志君（2014修）
- 地盤工学研究発表会・優秀論文発表賞：新井瞬君（M2）
- みらい水回り学生論文賞（給排水設備研究会）・最優秀賞：阿部敏也君（M2）
- 空気調和衛生工学会近畿支部学術研究発表会・奨励賞：浅田雄樹君（M1）
- ふれあい土木展（近畿地方整備局）・研究室対抗関西土木リーグ・奨励賞：儀賀大己君（M1）

- 公共政策デザインコンペ（土木学会土木計画学研究委員会）・北村記念賞：高橋咲衣さん（M2）、島瑞穂さん（M2）
- アーバンデザイン甲子園（日本建築学会近畿支部）・審査員特別賞（太田賞）：長谷川昂輝君（M1）、田村優一君（M1）
同・審査員特別賞（前田賞）：三好章太君（B4）、幸神はるなさん（B4）、村松陽野木君（B4）、西村亮介君（M1）、植平健君（M2）ほか
- ジャパンスチールブリッジコンペティション2014・美観部門1位：応用構造工学分野・構造コンクリート工学分野合同チーム（M1ほか）

教職員に関しては、平成26年度は異動が2件ありました。まず、平成26年10月にテニュアトラック特任教員として遠藤智司准教授が着任しました。そして平成27年3月に松村准教授が京都大学へ転出されました。両先生のご挨拶が本会報に掲載されていますので、是非ご覧ください。なお、松村准教授の転出により都市学科所属の常勤教員は17名（欠員1）となっています。後任は、気鋭の若手を採用するべく一般公募へ向けた学内手続きを進めているところです。

教員の研究活動等においては、西岡准教授と鍋島准教授がNEDO補助金を得て「温泉熱地域利用のためのハイブリッド熱源水ネットワーク構築技術の研究開発」プロジェクトに着手するなど、外部資金も獲得して活発に取り組んでいます。そして、「第60回構造工学シンポジウム論文賞（土木部門）」受賞（山口教授他）、「大阪市環境表彰」受彰（鍋島准教授）に顕著なように学会・社会で評価される実績を上げています。さらに、Kansai Geo Symposium 2014—地下水地盤環境・防災・計測技術に関するシンポジウムを大阪市立大学学術情報総合センターで開催、地盤工学会関西支部・幹事長就任（大島教授）のように学会活動にも貢献しています。

大阪市立大学をめぐる情勢はこの数年混沌としており、会員の皆様にもご心配をお掛けしていることとお詫び申し上げます。本稿の執筆時点（5月上旬）では不確定なことが多々あります。しか

し、学科の理念である「社会の要請を的確に把握し、倫理観と責任感に基づいて主体的に行動する『環境都市づくり』のプロフェッショナル育成のための教育を行う」ことは、この大阪において必要不可欠であり、社会からも要請されているものと確信しています。この信念のもと、教育内容も「社会の要請を的確に」反映

するべく、学科開設10年目となる2018年を目途として、教育カリキュラムの抜本の見直しにこのたび着手しました。教育カリキュラムは入学時点のものを当該学生が卒業するまで維持・提供する義務があるために、変更する際には学年進行に伴う並行授業なども考慮しなければならず、抜本的な見直しは頻繁にはできません。

ん。したがって今回の見直しは、さらにその後の10年を視野に入れた野心的なものとする所存です。変革のプロセスにおいて、またその後の実践においても、会員の皆様の引き続いてのご支援をお願い申し上げます。

研究紹介

都市学科の教育・研究は、都市デザイン領域・環境創生領域・安全防災領域の三本柱で構成されています。学生諸氏は、それぞれの領域で学んだ基礎知識を基に、先端研究の一端として卒業論文や修士論文の作成に、鋭意、取り組んでいます。ここでは、これらのリストを示すことで、都市学科で行っている研究の一端をご紹介します。

2014年度 都市系専攻（都市学科関連）修士論文一覧

領域	分野	修士論文題目	
都市デザイン	都市基盤計画	広域地域協働によるまちづくりの効果と持続性に関する研究 —「オープン台地 in OSAKA」を事例にして— 視覚障害者ナビの地物記述ガイドライン —日常生活モビリティニーズにおける「ことばの地図」—	
		商業地空間における来訪者の回遊行動に関する研究 —街区構成による境界の分類を通して—	
	環境都市計画	重要伝統的建造物群保存地区を中心に古民家再生に取り組む民間組織の役割と課題に関する研究 —兵庫県篠山市で活動する「町なみ屋なみ研究所」をケーススタディとして—	
		「まちなか広場」における空間マネジメントと利活用実態に関する研究 —「富山市まちなか賑わい広場（グランドプラザ）」を対象として— 常設的オープンカフェの展開と継続実施条件に関する研究 —全国の常設的オープンカフェ事業7事例を対象に—	
環境創生	地域環境計画	浴室排水熱回収による上水予熱システムの開発 —実験に基づくシステム提案と導入効果の試算— 再帰性日射反射体の実験的性能評価法 —変角放射輝度計の製作と BRDF の測定— 日射を受ける模擬植物葉面の熱収支と表面温度 帯水層を利用した昼夜間蓄熱システムの研究 —昼夜間・季節間蓄熱利用併用運転における蓄熱特性の同定及びエネルギー消費特性の試算—	
		都市域の下水管路網を活用した下水熱利用システムの研究 —省エネルギー性・経済性から見た下水熱利用システムの導入可能性検討手法の提案— 真空集熱管を用いた建物透過日射熱負荷削減対策の検討—外皮の熱収支と太陽熱利用空調の効果—	
		環境水域工学	大阪南港野鳥園北池塩性湿地における高水温期の CO ₂ 吸排出量の推定
		都市リサイクル工学	大阪市におけるリスクコミュニケーションを目的とした化学物質管理情報の活用 太陽熱と消化汚泥熱および下水熱を利用した新しい消化槽加温システムによる環境負荷削減効果
	安全防災	構造及びコンクリート工学	鉄筋コンクリート柱はりト形接合部の定着方法の影響に関する数値解析的研究 スレンダー RC 梁への DFRCC 増厚補強によるせん断補強効果に関する研究
			応用構造工学
地盤工学		大阪・神戸地域の表層地盤の土質特性のモデル化と地盤工学問題への適用 動的、静的サウンディング試験と室内力学試験の相関性に関する研究	
		河海工学	海洋モデルを用いた噴流が密度成層場に及ぼす影響に関する研究

2014年度 都市学科卒業研究一覧

領域	分野	卒業研究論文題目
都市デザイン	都市基盤計画	コミュニティバス路線網の維持・改変における住民の主体的関与状況に関する調査
		視覚障害者の外出意欲増進に資する「ことばの地図」ナビシステム
		車両検知器パルスデータを活用した渋滞原因推定手法
		自転車利用実態と保護者意識から見た小中学生の安全教育に関する比較研究
		都市部における自由目的の交通行動と公共交通サービス実態に基づいた移動困難度の事例研究
		信号交差点部における車道上自転車路面表示による自転車と自動車挙動に関する事例研究
		交通事故特徴を踏まえた自転車安全教育実践のための試みと課題
		高齢者の外出ニーズと移動支援を目指した新たなバスサービスの評価
	都心住商混合地区のまちづくりからみた自転車利用の課題と改善方策	
	環境都市計画	民有地緑化に関する施策の展開及び民間企業の取り組みと課題に関する研究 ーなんばパークス屋上庭園を事例としてー
		新聞記事にみる御堂筋の景観像の変遷に関する研究 ー高さ制限の制度転換期に着目してー
		まちなかバルにおける回遊行動実態と街路の空間構成との関係に関する研究 ー伊丹まちなかバルを事例としてー
		密集市街地の二方向避難路確保事業の整備効果に関する研究 ー全国4自治体の事業を対象としてー
環境図形科学	歩行者とドライバーの両視点からみた街路植栽の評価に関する研究	
環境創生	地域環境計画	梅田地下街における最速避難計画モデルの適用に関する研究
		蓄熱槽を有する熱パケット搬送設備の熱損失に関する研究
		指向性反射壁面の下方反射に対する簡易測定法の提案
		帯水層を利用した昼夜間蓄熱システムの研究 ー地下構造物の後流に発生する低流速域が蓄熱性能に及ぼす影響ー
		冬期における農業用ビニルハウスの効率的な暖房方式に関する研究 ー高床式砂ベッドの加温と保温効果の実験的検証ー
		歩行空間における緑陰形成や壁面緑化の放射温度低減効果の実測調査
	環境水域工学	浴室排水熱回収による上水予熱システムの開発 ー実験による平板型熱交換器の特性把握ー
		大阪南港野鳥園人工塩性湿地潮間帯におけるCO ₂ 吸排出特性に関する研究
		大阪湾における全炭酸濃度の分布調査によるCO ₂ フラックスの評価
	都市リサイクル工学	沿岸流動モデルを用いた大和川流下仔アユの分布エリアの推定
		酸処理条件の違いによる下水消化污泥からのリン回収効果への影響
		大阪市における震災発生直後の水需給バランスに及ぼす発災時刻の影響
		カラム試験による都市ごみ焼却飛灰におけるキレート薬剤の重金属溶出抑制効果の検討
安全防災	構造及びコンクリート工学	粒度分布に着目した汚染土壌中重金属のキレート洗浄処理
		DFRCC補強を行ったスレンダーRC梁のせん断耐力に関する実験的研究
		ポリマーセメントモルタルの基本性能に及ぼすポリマーの影響
	応用構造工学	超高強度繊維補強コンクリートを用いた鋼桁の曲げ補強に関する解析的研究
		パサルト繊維を混入したモルタルの力学的特性に関する基礎的研究
		鋼鉄道橋のカバープレート取替がその力学的挙動に与える影響に関する基礎的研究
		特殊ナットを有する高力ボルト摩擦接合継手の引張挙動に関する研究
		複数損傷を有する橋梁のニューラルネットワークを用いた損傷同定に関する基礎的研究
	地盤工学	ボルト接合したL字形材による鋼板パネルの座屈防止効果に関する解析的研究
		部材破断により振動モードが変化する構造物の動的解析におけるRayleigh減衰係数の適用法に関する研究
		粘性土を対象とした原位置サンプリング・サウンディング試験と室内力学試験の相関性に関する研究
		宅地を対象とした動的コーン貫入試験とSWS試験の高精度化に関する研究
		大阪地域における洪積層(Dg1, Ma12)の土質特性のモデル化と表層地盤の震動特性の推定
簡易的な遠心模型加振実験による不飽和層を有する地盤の液状化時地表面沈下量の検討		
河海工学	表層固化改良工法による液状化時地表面沈下抑制効果の検証	
	大型動的コーン貫入試験による地盤の液状化判定のための金属と土の摩擦音を用いた粒度特性の評価	
	不透過壁前面にサボニウス水車列を配する波力発電堤体の開発に関する研究	
	市街地構造を考慮した広域地下空間の浸水・伝播特性に関する研究	
		鉛直壁に波が作用する時の流動特性と飛沫の発生条件に関する研究

新任教員挨拶



遠 藤 智 司
特任准教授

2014年10月1日に大阪市立大学に赴任しました。「テニユアトラック普及・定着事業」（文部科学省補助事業）という、大学で進められている若手研究者の育成を目的した取り組みの一環として採用頂きました。大学や都市学科教員の皆様からの支援を頂きつつも、事業の趣旨に基づき既存の研究室からは自立した研究環境の中で研究活動を開始しています。

私は東京農工大学農学部環境資源科学科を卒業後、2003年にドイツに渡り、チュービンゲン大学のApplied Environmental Geoscienceという修士課程に留学しました。そこでは主に地下水利用に関わる科学・技術について学びました。博士論文研究も同大学で行い、有機汚染物質の土壌有機物への吸着について実験的、理論的研究に取り組みました。2009年からはドイツ・ライプチヒにあるヘルムホルツ環境研究センターという、日本で言えば国立環境研究所にあたる機関で有機汚染物質の生物蓄積性の評価・予測に関する研究等に従事しました。

私の専門は環境有機化学です。特に、様々な系における有機化合物の吸着・分配挙動の測定、モデル化、予測法の開発を研究分野としています。人間活動のあるところでは常に化学物質が環境に漏出する可能性があります。特に人が集中する都市では多種多様な物質が広範に使われています。それぞれの化学物質の環境挙動を物性、分子構造を基に化学的に理解し、化学物質の環境リスク評価につなげていきたいと考えています。

今春、11年ぶりに日本の桜を堪能することができました。また同じ頃、都市学科の新4回生2名が私の研究室で卒業研究を開始しました。新しい環境にも慣れ、徐々に研究・教育に注力できる状況が整ってきました。何卒、皆様方のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

退任教員挨拶



松 村 政 秀
准教授

平成9年卒業、平成11年修了の松村政秀でございます。この度、3月末をもちまして大阪市立大学を退職し、4月1日付で京都大学大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻 構造工学講座 構造力学分野の准教授として着任致しました。

大阪市立大学には、平成5年4月に土木工学科へ入学して以降、6年間の学生生活と続く16年間の教員生活の計22年間お世話になりました。何かと至らぬ点多々あったかと存じますが、大阪市立大学在職中には卒業生・在学生の皆さまから公私にわたるご指導ご厚情を賜りましたこと、心より感謝いたすとともに厚く御礼申し上げます。

研究室配属を控えた1月に兵庫県南部地震による構造物の被害を目の当たりにしたことから橋梁工学研究室に配属を希望し、故中井博名誉教授、北田俊行名誉教授、山口隆司教授のご指導のもと、鋼構造物の耐荷力、耐震、補修・補強、維持管理等に関する研究・教育活動を進めてまいりました。

今後も、市大での経験を生かし、構造物に関わる研究・教育活動に励みますので、より一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

末筆ではございますが、都市会会員の皆さまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げ御礼のご挨拶とさせていただきます。京都大学桂キャンパスで教鞭をとっていますので、桂にお越しの際は是非お立ち寄りいただければと存じます。

企 画 募 集

「都市会」が発足して10ヶ月が経ちました。新しい同窓会の活動を考えて行かねばならないと思います。そこで、会員相互の研鑽と親睦を図る企画を募集します。都市会からは企画に対する支援をすることを考えています。

会員皆様から多くのご意見を頂きたいと存じます。従来にない新しい会員交流会や学生支援などの具体的な提案があればどしどし事務局へお願い申し上げます。

イベント開催報告

平成26年度 第1回評議員会

新しい都市会になって初めての評議員会を平成26年11月21日（金）の午後6時から、大阪市立大学文化交流センターの大セミナー室にて開催いたしました。

旧土木会では年1回の総会の開催日に併せて評議員会を開催し、同窓会の案件を決めて参りましたが、昨年は統合総会後に開くこととなりました。

議題は①統合総会報告、②会員名簿の発行について、③平成27年度総会の開催について の3議題を審議いたしました。

①の統合総会報告は総会の議案書を説明しご理解を得ました。

都市会会報の創刊号にも内容は記載しております。

②の会員名簿の発行については、

- 名簿には、卒業年・氏名・会社名or逝去のみを記載する。
- 卒業学科（都市基盤工学科と環境都市工学科別）は明示しないが、卒業学科ごとに氏名を記載するようにする。
- 発行は今年度の会報および会費請求と同時発送出来るよう努力する。

- 発行形態について、今年度は冊子とする。
 - 今後の発行頻度、電子ファイル等の発行形態は継続審議とする。
- ③の平成27年度総会の開催についてですが

平成27年6月5日（金）を第1候補とすることが承認されました。（しかしながら会場などの関係から7月4日（土）となりました。）
などが審議され決定いたしました。

平成26年度 大阪市立大学都市会 東京支部総会 報告

平成26年11月18日（火）に、平成26年度大阪市立大学都市会東京支部総会が東京品川の“アリス・アクアガーデン”で開催されました。東京支部は、土木会の東京支部として、昭和60年に発足し、以来、毎年支部総会を開催し、会員の親睦、情報交換等を行ってきました。昨年は、土木会と環境都市学科同窓会と都市会が統合され、新たに都市会が発足したことから、都市会東京支部総会として開催しました。東京支部総会は、平成3年以來、

毎年、原則として、土木の日に開催しており、今年も11月18日に開催しました。

当日は、山田優会長をはじめ川本副会長、芝野事務局長に大阪より来ていただき、昭和40年卒業生から平成26年卒業生まで総勢34名の出席がありました。

亀山氏（H4卒）の司会のもと、山田会長からご挨拶をいただき、川本副会長の乾杯で懇親を深めました。

また、芝野事務局長から都市会発足の経緯等の説明もしていただきました。

会員相互の情報交換等を行った後、長崎様（S40卒）、稲垣様（S40卒）のご挨拶で中締めとなりました。

平成27年度も、11月18日（水）【土木の日】に、アリス・アクアガーデン品川で開催します。品川駅まで徒歩3分で新幹線への便もよいので、出張等で上京の方もぜひご参加ください。

なお、参加費は新卒の方は無料、卒業10年未満の方および60歳以上の方は3000円としておりますので、奮ってご参加ください。

また、転勤等で関東地区に異動になられた方は、東京支部幹事までご連絡ください。

大阪市立大学都市会東京支部

幹事 今井一彦（S.54卒）

E-mail:kz-imai@ctie.co.jp



市土会ゴルフコンペ 報告

今回で24回目となりました市土会ゴルフコンペが、平成26年10月30日（木）に富田林市の光丘カントリー倶楽部で開催されました。

汗ばむほどの秋晴れのなか、徳本会長（S46卒）の開会挨拶のあと4組16名がスタートしました。親睦を楽しむ人、スコアを目標にする人、とにかくゴルフが好きの人、健康のためにしている人などそれぞれの思いを抱いてプレイしました。

表彰式、懇親会では成績発表に続き大学の現況報告や次回の開催相談が行われました。競技結果は、中西正昭氏（S43卒）が優勝（ネット71.6）とベスグロ（グロス82）の2冠に輝きました。2位が松村氏（S49卒）、3位が石丸氏（H3卒）でありました。

今回は通常の賞品に加えて、旭さん（理39卒）より景品のご提供があり、参加者全員が賞品を手に入れたことが出来ました。



集合写真



左から、石丸氏（3位）、中西氏（優勝）、松村氏（2位）

最近では新規参加者がなく、平均年齢の上昇と参加者の減少傾向が続いています。同期生や職場等で誘い合っただけのご参加お待ちしております。

今回は、秋（10月頃）に予定しております。詳細が決まりましたら都市会HP等でご案内いたします。

幹事：徳本（S46卒）、岡田（S60卒）、吉田（S62卒）

就職ガイダンス

学生支援活動の一環として昨年度、都市学科 合同企業説明会を3回に涉って開催いたしました。

開催日時および説明頂いた企業等は次の通りです。なお説明頂いた方々のほとんどが、都市会の先輩諸氏でした。

説明会終了後、リクルーターの皆様と学生、教員の皆様と懇親会を持ち、就職について熱のこもった話がありました。

平成27年1月16日（金）14:30～18:00

公務員（国家）

国土交通省近畿地方整備局

（都道府県）滋賀県

（政令市）大阪市

マリコン 東亜建設工業(株)

ゼネコン 清水建設(株)

環境プラント (株)タクマ

コンサルタント

中央復権コンサルタンツ(株)

コンサルタント

(株)ニュージェック

平成27年2月20日（金）14:30～18:00

鉄道

西日本旅客鉄道(株)

【JR西】

道路 阪神高速道路(株)

空港 新関西国際空港(株)

ゼネコン (株)奥村組

鉄鋼 JFEスチール(株)

コンサルタント

パシフィックコンサルタンツ(株)

エネルギー・機械

(株)クボタ

設備・エネルギー

(株)大気社

平成27年3月27日（金）15:30～18:30

マリコン 五洋建設(株)

コンサルタント

ジェイアール西日本コンサルタンツ(株)

コンサルタント

(株)建設技術研究所

コンサルタント

(株)オオバ

水道 大阪広域水道企業団

ゼネコン 西松建設(株)

コンサルタント

基礎地盤コンサルタンツ(株)

公務員（都道府県）

兵庫県（県土整備部）

環境 (株)いけうち

（霧のいけうち）

エネルギー・機械

ダイキン工業(株)

平成27年都市学科 新入生歓迎会

平成27年4月9日午後4時30分から、田中記念館の食堂メタセコイアで平成27年の都市学科新入生歓迎会が開催されました。今年は都市学科7期生になり、54名の新入生を迎えました。

歓迎会は大学院生の司会で始まり、都市会の山田田会長から新入生に向けて暖かいメッセージがありました。

今年の歓迎会は、簡単な教職員および新入生の紹介の後、小グループに分かれて新入生と教職員とが双方でグループインタビューを行い、その後、各グループの新入生から各先生方の特徴などを発表してもらい、大いに盛り上がりました。

山田会長挨拶



全体集合写真

『「新・公立大学」大阪モデル（基本構想）』

大阪市立大学と大阪府立大学の統合・再編に関しては、平成25年1月18日の大阪府市新大学構想会議による「新大学構想〈提言〉」、平成25年9月の大阪府・大阪市による「新大学ビジョン」、平成25年10月の大阪府・大阪市による「新法人基本方針」を経て、平成25年10月に『新大学案（平成25年10月版）』がとりまとめられるに至っています。その後、平成26年4月25日付の大阪市長が大阪府立大学法人理事長に宛てた通知の中で、それまでの大学統合に関する議論の状況を踏まえて、両大学で主体的に大阪における公立大学のあり方について検討するように指示が出されました。これを受けて、大阪市立大学と大阪府立大学の両大学では、「大阪における公立大学のあり方」について検討し、平成26年10月に『「新・公立大学」大阪モデル（基本的な考え方）』をとりまとめています。さらに、平成27年2月には、その内容に具体的な取り組みや統合効果の具体例などを盛り込んだ『「新・公立大学」大阪モデル（基本構想）』が取りまとめられています。

ここでは、公開されている資料（<http://www.osaka-cu.ac.jp/ja/news/2014/zwg7ab>）から抜粋して、その要約を紹介します。

1. 都市大阪の公立大学に求められるもの

○「新・公立大学」として、以下のような大阪のグローバルな発展を牽引する存在としての公立大学像が求められている。

- 地域課題解決のためのイノベーション創出拠点としての公立大学
- 大学間競争に打ち勝つための戦略性やスケールを持つ公立大学
- 地域に根ざし世界に羽ばたく人材を育成する公立大学

このような大阪の発展を牽引する指名を果たすため、統合によって両大学の有するリソースを最大限に活用し、都市情報を集約分析して地域課題の解決力を強化する。

これによって、

- 多様な分野の融合により新学術分野を展開し、教育力、研究力、地域貢

献力をアップする。

- 公立大学トップの規模を有し、大阪の魅力を支え、グローバルな発展をリードする。

2. 大学統合の効果

○統合により、文系から理系・医学・獣医学分野までを持ち、総合性があり突出した規模を持つ公立大学が誕生する。両大学の有するリソースを最大限に活かすことにより、教育力、研究力および地域貢献力の向上が図られ、新たな公立大学のモデルとして、大阪の発展を牽引できる。

○統合による教員資源の活用により、教育、研究のさらなる向上が図られ、それらが地域貢献の向上につながる好循環が期待できる。

3. 新大学がめざすもの

- [教育] 大阪を牽引するグローバル人材の育成を行う。
- [研究] 先端研究、異分野融合研究に重点的に取り組む。
- [地域貢献] 大阪の課題に積極的に取

り組む。

4. 新大学での取組み

○[教育]

- グローバル人材の育成
- 基幹教育の充実
- 高度な専門性を有する人材の養成

○[研究]

- グローバル研究拠点の形成
- 先端研究、異分野融合研究の推進
- イノベーション創出拠点の形成
- 地域課題解決型研究の推進

○[地域貢献]

- 大阪の歴史、伝統、文化を支える地域貢献拠点の形成
- 大阪における産業活性化への貢献

5. 新大学のすがた(1)

○教育研究体制（学士課程、大学院課程）

- 学士課程では、基幹研究（全学共通教育）と専門教育を効果的に行い、多様な人材を育成する。
- 大学院課程では、高度な研究を踏まえた教育により、世界で活躍する研究者・専門家を育成する。また、時代のニーズに応じた「社会人大学院」を展開する。
- 分野横断の学際的な教育、学内外フィールドを使った課題解決型教育、海外留学などによる柔軟な人材育成の仕組みを構築する。
- グローバル化された社会で活躍できる人材を養成する。
- 基幹教育（全学共通教育）を強化するために独立した組織を設置する。
- これまで行ってきた研究分野を伸ばしながら、新大学におけるシナジー効果を発揮するために、新たな領域における教育・研究にチャレンジする。
- 学生数は、現在の規模（約16,000名）を有し、留学生の増加などの国際化を図る。

○キャンパス

- 大阪の活性化や新大学の象徴として、都心にグローバルキャンパスの整備が必要。
- グローバルキャンパスでは、国際交

流や研究ネットワーク拠点をめざすとともに、英語を基盤とした国際感覚あふれる教育を展開し、グローバル人材を育成する。

- 既存キャンパスは、その機能・役割を整理し、効率的かつ効果的に活用する。
- 新大学のキャンパスでは、地域に開かれた大学として、より多くの人々に学ぶ機会を提供する。

6. 新大学のすがた(2)：教育研究体制

○教育研究の展開領域

- 伝統的な学術分野
- 学際的な学術分野
- 分野融合による新展開の学術分野

○社会人大学院

- 企業経営
- 観光・文化創造
- 公共経営
- 教育経営

○全学教育研究組織

- 基幹教育の推進
- 先端・複合研究の推進
- 地域貢献の推進
- 産学官連携の推進
- 国際化の推進

○教育体制

- 教員組織と教育組織の分離
- 教育の質保証
- 柔軟な学事暦の導入
- 教育支援スタッフの配置

○教育システム

- アクティブラーニング
- 外国語教育
- 国際通用性のある教育制度
- 学修成果目標
- 教育課程の最適化
- インターンシップ

○入試

- 新大学の教育理念・目的に応じた入学者受入方針のもと、中期日程を含む現行の入試制度を踏まえ、各分野の特性に応じた適切な募集単位での入試を行う。
- 平成26年12月の中央教育審議会答申を踏まえ、入学者受入方針に基づき、多面的な選抜方法を検討する。特に、グローバル化に対応した人材を育成

するため、英語の入試においては、入学者受入方針を踏まえ、外部試験の活用を含め、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に評価できるよう努める。

- 学生の入学定員は、これまでの公立大学として果たしてきた役割を考慮し、現在の両大学・大学院の定員を上限として設定する。

○学生支援

- 図書館を単に情報提供の場ではなく、学生が学ぶ場とする。さらに、学生の学をサポートする場となるように学習環境の整備に努める。
- 学生の心身の健康に関するサポート、授業料減免などの経済的支援、海外留学に対する支援、学生食堂などの厚生施設の充実を図る。
- 留学生や障がいのある学生に対し、適切な支援を行う。
- キャリア教育の充実を図り、学生に求められている社会的ニーズを理解させるなどの就職支援を展開する。
- キャンパス間の移動手段、学生生活及び課外活動に関する支援等の具体的な方策は、新大学の細部の設計とともに、今後検討・調整する。

7. 新大学のすがた(3)：キャンパス

○大阪の都心部の活性化

- 立地ポテンシャルの高い都心部で、国内外に開かれたグローバルキャンパスを展開し、世界へつながる交流ネットワークを広げる。
- 大学は少ない大阪都心に、国内外の若者や研究者が集い交流する拠点が誕生することにより、大阪の活性化に寄与する。

○グローバルキャンパスの機能

- グローバルキャンパスでは、国内外に開かれた国際交流や研究のネットワーク拠点をめざす。また、グローバル人材を育成するため、留学生を交え、英語を基盤とした国際感覚あふれる教育を展開する。
- グローバルセンター／グローバル人材教育／社会人大学院のネットワーク拠点／地域貢献の研究ネットワー

ク拠点

- 新大学のすべてのキャンパスは、地域コミュニティの中にある生涯学習の拠点としての機能を果たすとともに、地域に開かれた大学を目指す。

8. 大阪の成長への貢献

○超高齢・人口減少社会において、大学が幅広い分野でイノベーションを創出し、持続的に発展し日本の成長を牽引する理想都市大阪の実現に貢献する。

[統合効果の具体例]

- 大阪の健康度アップ（健康科学の拠点）に向けて
- くすりの町 大阪の発展に向けて
- 環境に配慮した都市圏の創造に向けて
- 低炭素社会の実現に向けて

9. 新大学に向けた当面の連携強化

○国際性が高く、世界へつながる新大学の実現を目指し、語学力強化等の全学共通教育改革、国際通用性のある教育システムの改善を図る。

- 教育における教員の相互交流の拡大
- クォーター制の同時導入
- 単位互換の拡充

○実践力の高い社会人教育の充実を図る方向で、新大学の社会人大学院の姿を先取りして共同実施による社会人大学院の設置など、さらなる連携強化を進める。

- 博士課程教育リーディングプログラム

「システム発送型物質科学リーダー養成学位プログラム」(H25～H31)

- 地(知)の拠点整備事業（大学COC事業）

「大阪の再生・賦活と安全・安心の創生をめざす地域志向教育の実践」(H25～H29)

27年5月17日の大阪市住民投票によって、大阪都構想は否決されました。今後の本学のあり方について学長見解が出されましたが、動向の詳細については、本号の発刊時点では、不透明です。

大阪市立大学 都市防災教育研究センターを 開設

2011年3月11日の東日本大震災以降、大阪市立大学は直ちに都市防災研究プロジェクトを立ち上げ、医学、看護学、生活科学、理学、工学、経営学、経済学、法学、文学、創造都市の10研究科、および都市研究プラザ、都市健康・スポーツ研究センター、複合先端研究機構を含めた全学的な文理融合の組織で、被災地支援および防災研究、防災教育を推進してきました。その約4年間の成果を踏まえて、2015年3月1日に、都市防災教育研究センターを設立する運びとなりました。

センターの目的として、

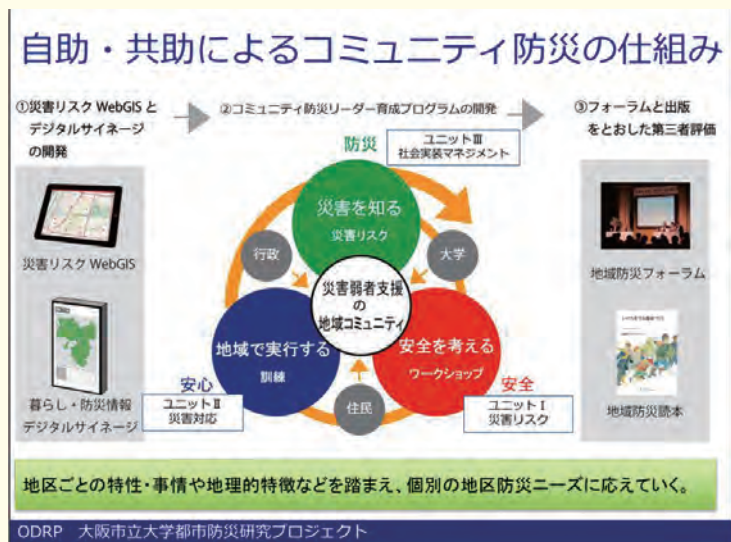
- (1) 災害および都市大阪の調査研究を通して「都市科学」研究の進展を図る。
- (2) 防災教育、防災研究および被災地支援を「全学的な文理融合組織」で推進する。
- (3) 最新の災害研究、情報技術、都市科学に基づく「災害知の社会実装」を展開する。
- (4) 自助・共助による都市防災の仕組みとして「コミュニティ防災システム」を構築し、その教育研究拠点を形成する。

を掲げています。

都市防災教育研究センターでは、東日本大震災後の新たな防災の仕組みとして、都市大阪を基盤にした「いのちを守る都市づくり」による災害知の社会実装を展開します。いのちを守ることを第一義にして、都市の災害リスクを精緻に評価して適切な避難や災害対応につなげる防災リーダーを育成するとともに、防災拠点の計画・整備を通して、自助・共助による確かな防災力の向上をはかります。国内外の防災センター等と連携しながら、広域複合災害に向けて、最新の災害研究、情報技術、都市科学を踏まえた新しいコミュニティ防災システムの確立を目指します。

都市学科の教員は、防災・減災のための研究を遂行して情報を発信するとともに、その知見を地域住民にわかりやすく伝えることに貢献しています。教員の活動とともに、都市防災教育研究センターの活動にも、今後、ご注目ください。

(<http://www.osaka-cu.ac.jp/ja/news/2014/gj1y2j> を参照ください。)



連載企画 『10年ひと昔で強める同期の絆』

10年ひと昔 長いようで過ぎてみると短い

外面の変化は隠しようがないけど、心根は卒業の時のまま

その積み重ねで気がつけば〇年

そんな区切りの年を迎えられた学年の同窓会の様子を語っていただきます

毎年区切りの年はあります 次はあなたの学年ですよ

高度経済成長期の
下水道事業の経験結 城 庸 介
(S39年卒)

私は昭和39年4月に大阪市に就職し、すぐに下水道事業部門に配属されました。それ以来、退職時まで下水道事業のみに従事してきました。昭和39年は東海道新幹線が開通し、東京オリンピックが開かれた年です。高度経済成長期とは昭和30年から昭和48年までとされています。昭和39年はちょうど高度経済成長期の前半期から後半期に移行する時でした。都市内の経済活動の急激な増大に伴って、汚水排出量は急増し、河川等の公共水域の水質が汚濁し、水面はひどい悪臭で充満していました。このような状況の中で下水道は緊急に整備することが求められていました。

大阪市では、人口一人当たりの計画汚水量は経済発展に伴って戦前の昭和5年から戦後の昭和47年までの間に約3倍に増加し、昭和47年度に計画した昭和51年度末の計画処理水量は296万 m^3 /日となっていました。下水道施設の内、処理場の建設を進めるには、まず施設を設置するための用地が必要となります。一般に下水の二次処理に必要な用地面積

は0.5 m^2 / (m^3 /日) とされていましたが、当時の大阪市の既存の保有用地面積は約77ヘクタールでしたので、この面積は296万 m^3 /日に対して0.26 m^2 / (m^3 /日) に相当し、用地面積は真に不足していました。当時、買収済の処理場用地の周辺は既に密集した市街地になっており、周辺用地を買収することは非常に困難な状態でしたので、私たちは建設する施設の構造・配置を工夫し、単位処理下水量あたりの必要施設面積をできるだけ縮小することにによりこの問題の解決を図ることにしました。その内の一つが以下に述べる3層式最終沈殿池の開発でした。

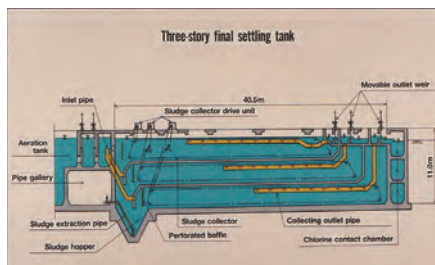


写真1. 3層式最終沈殿池 縦断面図

下水の活性汚泥処理では反応タンクで生じた活性汚泥を最終沈殿池で沈殿分離して処理水を得ますが、その分離にあたっては密度流という現象を避けるため、沈殿池の流入部を除いた自由水面全体にできるだけ一様に越流堰を配置して処理水を水面から均等に流出させることが良いとされています。そこで私たちは、通常行われている自由水面を利用した越流堰方式ではなく、自由水面を利用しなくとも水面積全体から処理水を流出させられる方式として管にオリフィスを設けた流出管方式を採用することにより、施設の用地使用面積を削減できる3層式の最終沈殿池を考案しました。

写真2. 3層式最終沈殿池の中層
(枝管と主管が見える。)

流出管は径500mmの主管と径200mmの枝管で構成されています。枝管の上面には径40mmのオリフィスを約200mm間隔で設けてあります。この流出管の設置の状況は写真2で示されています。流出管内の処理水の流速によって動水勾配が生じますので、各枝管に設けるオリフィスの開孔率を変化させなければ水面積当りの流出量は一樣になりません。そこで水理計算によってそれぞれの枝管に設置するオリフィスの面積・間隔を計算しました。施設の完成後、実際の沈殿処理機能の成績を調査した結果、上・中・下の3層間で同等の良好な沈殿処理成績を得ることができました。

3層式最終沈殿池の採用やその他の処理施設の省用地化の工夫により、最終的には大阪市内12か所の処理場用地面積約77ヘクタール内に処理能力296万 m^3 /日の施設を設置することができました。この結果、不必要となった用地の買収費も節減できたこととなります。そして、下水道整備によって現在では大阪市内河川の水質はBODで2~3 mg/ℓ 程度となり、あゆの生息も見られるようになりました。

3層式最終沈殿池の有用性については国内外への広報に努めました。国内では、「日本の下水道1990年」(Sewage Works

in Japan 1990) に、また、下水道協会誌の平成3年3月号にそれぞれ掲載されました。また、国外へは、平成2年に京都で開かれた国際水質汚濁研究会議 (IAWPRC : International Association on Water Pollution Research and Control) で発表しました。さらに、アメリカの月刊誌である WPCF (Water Pollution control federation) 発行の Water Environment and Technology の 1991年6月号に掲載されました。海外においても既存市街地に位置する下水処理場では用地拡張が困難な所があり、アメリカ EPA 及びボストン市や、香港政庁から施設見学に連れられました。



写真3. Water Environment & Technology 1991年6月号

最後に、土木工学科昭和39年卒業者の状況を記します。10数年間同窓会を開いていませんでしたが、平成26年で卒業後50年になりますので、平成25年と平成26年の2回にわたり同窓会を開催しました。同期卒業生27名の内、それぞれの年で14名、11名の参加がありました。久しぶりに顔を合わせましたが、すぐに学生時代の気分になり、大変楽しい時間を過ごすことができました。しかし、話の内容の多くは現在の健康状態に関する事でした。そこで私の健康維持法を少し記しますと、1週間を単位として、ジョギングを2回、水泳を2回程度の運動を行うことにしています。そして年に2度程、体力測定を兼ねてスキーに行っています。少し息を弾ませる程度の運動をすることが健康を維持することになると思っています。



写真4. 黒姫 平成25年12月

「ちゃうちょう」会

寺田邦男

(S49年卒)

今年3月、突然に、大阪市立大学工学部都市学科OB会より、卒業40年を迎えたため、機関誌に掲載する原稿の依頼が送られてきました。

タイトルが、「10年ひと昔で強める同期の絆」ということで、あらためて土木会通信を読み直すと、連載企画が載っておりました。機関誌を頂いた時は、何も考えず読み流しておりました。後悔しても仕方がないので、記憶を辿りながら、卒業後の40年をいかつままで皆様に報告します。

同窓生といえば、通常は、卒業年次が同じ仲間を表す場合が多いですが、私たちの場合は、昭和45年度入学し、机を並べ、同じ釜の飯を食った仲間として、卒業後も同窓会を数年に一度、関西地区の県持ち回りで開いておりましたが、ここ数年はご無沙汰しています。

卒業後の進路が違うように、各自の生活拠点も関東圏、中部圏、関西圏が主ですが、特に、仲間の多くは、関西圏に拠点を置いており、私自身も、勤務地が大阪、自宅は奈良、ということもあり、関西圏での話題を提供します。

卒業後約40年が経過するわけですが、鬼籍に入ったのが幸いにして1名と少なく、すでに2度目、3度目の宮仕えをしているもの、宮仕えを終え、悠々自適？の生活を送っているもの、それぞれに、エンジョイ？している状況です。

同窓会というよりも、主に関西圏の人間の集まりで、謂れは不明ですが、「ちゃうちょう」会という名で懇親を深めています。

謂れは諸説あり、その一端を紹介すると、1つ目が、当初、飲み会が目的に集まり、議論に花が咲き、誰かが主義・主張または何かの説明をすると、他方で、「ちゃうちょう」と違う主張・説明をし、議論が益々白熱する、という説。

また、会の途中から参加した私は、同窓会？「ちゃうちょう」と、勝手に理解していた。

あるいは、当初の会場場所が、天神橋

筋商店街の近くで、場所を商店街かと問い合わせると「ちゃうちょう」という返事。

今、我々のしているイベントの一端を紹介すると、

1. 飲み会

「ちゃうちょう」会のメインイベント。

当初は、幹事、場所が固定されていたが、ある事情から、特定することがなくなりました。最近では、珍しい店、食べ物、地域を探し・見つけたものが、メールで情報交換し、日時・費用・集合場所等を案内し開催しています。(写真は、野田阪神駅前商店街の隠れた居酒屋)



市大土木49 はながさ全員

2. ゴルフ

卒業当初は、同窓会の翌日に3～4組で懇親を深めるコンペをしていましたが、徐々に参加する人数が減り、最近では、1～2組で、特にゴルフ好きが集まっている。

「ちゃうちょう」会として、年間、3～4回、各自のメンバーコース等で、季節のいい時期を選んでの開催し、そのうち、3月には、1泊で泉州～南紀白浜の2ラウンドが固定化されました。

3. 旅行

メンバーの一人が、大の韓国好きで、韓国語もペラペラ、現役当時から何度も旅行(それも一人で)し、愛人を囲っているらしいと噂されるほどに、通った実績を評価し、旅行の企画、ガイド、通訳及び旅行中の世話役を任せ、韓国への旅行を昨年実施した。(下の写真が、その時の状況)



その企画に味を占めたメンバーの一人が、嘗ての勤務地での思い出から、富山の観光・グルメツアーを企画・実施しました。

4. 東日本大震災の東北地方復興状況の視察

これも、メンバーの一人が、東北の災害・復興の支援目的から、毎年、夏の間に、企画・募集し、実施しています。残念ながら、当「ちゃうちやう」会メンバーの参加は少ないようです。

以上、簡単に、我ら昭和45年入学同期生のつながりを紹介させていただきました。

今回、事務局から、卒業40年を迎えたことを知らされたので、改めて同窓会を企画しなければと思いましたので、企画の案内状が届けば、万難を排しての参加を要請します。

幹事、場所をまた、「ちゃうちやう」会で検討しますので、皆様の参加しやすい形での時期・場所を選定したいと思います。

最後に、私事で恐縮ですが、最近の経済事情で、文化・芸術への理解・支援が行政から得られにくくなっており、是非市民の皆様のご支持をお願いするものです。特に、音楽関係のコンサート等へ、足を運んでいただきますようお願いするものです。理由は簡単です。私の娘が、音楽（サクソフォーン奏者）で飯を食べていこうとしているからです。

締切まじかで、あわてて纏めたもので、皆様に読みにくい、乱文・乱筆だと思えますがご許し願います。最後まで読んでいただき誠に有難うございました。

30年を振り返って

布 川 貴 一
(S59年卒)



投稿依頼を受けて、卒業後はや30年が経ったのかと改めて感じ入っています。まだ、入学当時のことが、実感を持って

昨日のように思い出されます。最初のオリエンテーションの自己紹介では、同期入学の半分以上が第1志望が電気や機械で、そこから土木に流れてきていて、主任教授が笑いながら何とも言えない顔をしていたのを覚えています。かく言う自分も、一応、土木を第1志望としていましたが、それは、成績上やむなく土木で受けたけど元々建築志望であったという呆きられる側の学生の一人に入っていました。

ただ、一つ言い訳しておく、当時は、今の様にインターネットで様々な情報を入手できる時代ではなかったもので、普通科の高校にいと土木の仕事がどの様なものか分からず建築志望としただけで、その後の土木工学総論での港大橋の建設をはじめ、まちづくりに関わる内容を知るに連れて、まさにシビルエンジニアという名に相応しい、まちの計画、基盤を大勢で協力して進めていく土木は、建築より面白いのではと、ひと月もしない間に感化されていました。その時は、土木という名前が古めかしく学生の感性にヒットしないので、都市工学や都市基盤工学とかいう名称に代えたら良いのではと、最初のガイダンスの感想にも書きましたが、それから10年程で、色々な大学で土木という言葉が消え、思った通り、都市工学とかシステム工学とか学生受けする名前に代わってきました。ただ、この時には、逆に土木という歴史のある言葉に愛着を持つ年齢になってしまいましたが…

卒業時はそのまま大学院に進学したので、環境も何も変わらず特に感慨というものはありませんでしたが、大阪市に就職し社会人となってから、様々な経験をさせていただいています。まだまだ、過去

を振り返る年齢ではないですが、下表のように、まちづくりに係る局を移り、本当にいろいろな事を経験させて頂いています。当然、力不足のため満足な業務が出来なかった部署も多々あったと思いますが、各異動先で多くの人と知り合いになることができ、これらの人達は次の異動後も助け、助けられる仲間となっています。この人たちが私の財産であると思っています。

また、仕事に関わり、市大の先生方はもとより、大阪市役所に多くおられる市大卒業生の方々にもお世話になっていきます。市役所外でも、他都市や民間企業の中に市大卒業生がおられると、何らかの関係で仕事をご一緒する時に、その人を通じて組織内部から一声掛けていただくと、仕事が比較的スムーズに行き、特に仕事を立ち上げる時のスピードに格段の差が出るというのを実体験として感じています。

一方、私生活の方はというと、入学時には結婚など絶対しないだろうなと思っていましたが、普通に結婚して、子供ができて、、、、それまでの卒業後10年くらいは、誰が言い出す訳でもなく、毎年、盆、正月など7,8人で集まり飲み会や麻雀をしていましたが、だんだん機会が少なくなっていき、最近では、連絡することも稀となっています。

近況として、この3年の間に私としては、大きな節目となる様な出来事が起こりました。まず一つ目は、一昨年に親父が他界しました。10月30日の朝具合が悪いと病院に車で運んだその日に入院となり、そのまま自宅に戻ることなく3週間少し経った11月22日に息を引き取りました。すい臓がんでした。1年くらい少し体調が思わしくない様な感じはあったのですが、食欲も旺盛で特に寝込むことも

昭和59年 (1984)	大阪市立大学 卒業
昭和61年 (1986)	大阪市立大学工学研究科 修了
昭和61年 (1986)	大阪市入庁 土木局土木部河川課河川係
平成4年 (1992)	建設局土木部交通安全施設課第1設計係
平成6年 (1994)	総務局 (大阪府都市整備局総合計画課施設第二主査)
平成8年 (1996)	建設局土木部河川課防災係長
平成13年 (2001)	建設局土木部交通安全施設課長代理
平成14年 (2002)	建設局管理部中央工営所副所長
平成15年 (2003)	建設局土木部橋梁課長代理
平成16年 (2004)	計画調整局開発企画部都心活性化担当課長
平成19年 (2007)	計画調整局計画部幹線道路担当課長
平成21年 (2009)	計画調整局開発調整部地域開発担当課長
平成23年 (2011)	都市整備局まちづくり事業部拠点開発事業担当課長
平成26年 (2014)	都市整備局企画部区画整理課長

なく、まさかそこまで進行していたとは思いませんでした。入院した初日、2日目の検査で、すい臓がんの末期段階にあり、溜まった腹水から各部へ転移していてひと月持たないと医者から告げられました。皆には余命期間は話しませんでしたが、当人は長くないと分かっていた様です。それから、癌に関して本やHPでいろいろ勉強し、最後に、余命を安らかに暮らす方が良く治療型から緩和型への病院へ転院しましたが、症状が回復することはなく静かに坂を転がる様に亡くなりました。享年83歳であり、男性の平均寿命を超えているので仕方ないと思ひ自分を納得させていますが、それまでが元気だっただけに、人の命のあっけなさに心ならず衝撃を受けました。

たったひと月の看病、それも病院へ見舞いに行くだけだったのですが、その後の葬儀や法要などの疲れやストレスからでしょうか、百か日法要が終わって暫くした日に職場でひどい眩暈に襲われ倒れ、緊急搬送された先の病院で脳梗塞を発症しました。これが二つ目の出来事です。眩暈も大変酷いもので、アイマスクを付けてじっとしていても頭がふらつき、1週間は症状が軽くない程でしたが、二日後に左手の感覚がおかしくなり、MRIの結果、丁度、左手の機能を司る右脳に梗塞部がはっきり現れていました。しかしながら幸運にも入院中であつたため、直ぐに点滴による治療を開始することができ、それこそひと月程はボタンが留められないとか、左手の感覚がおかしい不自由さがありましたが、今では、殆ど機能障害なしに日常生活を送れるまで回復しています。親父の入院、死亡の直ぐ後ただけに、自分の入院姿を見せてお袋が気落ちすることがないように、約ひと月の入院および自宅療養の間、仕事が忙しいとか風邪をひいたとか会えない理由を作り隠し通しました。今も気づいていないでしょう。

この親父の葬儀の際や私の入院に際しても、同期をはじめ多くの方から励ましの言葉を頂きました。この場を借りて改めて御礼を申し上げます。あまり紹介したくない近況なのですが、皆さんも充分健康には留意して頂きたいという気持ちから書いています。同世代からは共感を頂けるかなと思っています。

最後に、無精の極みですが、この投稿を読まれた同期の皆さんへ、下記アドレスに個々の自宅アドレス(PC,携帯)をお送り下さい。取りまとめを致します。この際、59卒だけでなく55入学も出来たら取りまとめようと思っています。

mona-ty@u01.gate01.com

運動と健康管理 のすすめ

大杉朗隆
(H6年卒)

平成6年に大学を卒業してから丸20年が経ちました。すでに私は43才、立派なおっさんです。子供は、中3と小3、立派なガキに成長しました。

今回『同期の絆』とのことですが、ここ2、3年で顔を合わせたのは、卒業年同期31名中たった3名(1名は職場の同僚で、毎日のように顔を合わせております。)です。皆、お仕事で忙しいのは当然でしょうが、さらにその上、地域自治会、PTA、子供のクラブの保護者会などで、夜間土日忙い生活を送っているのではないのでしょうか。それぞれの職場、地域、その他コミュニティを、少し前の世代から受け継ぎ、現在、これらを支えているのが、我々の世代ではないでしょうか。自負?、自らの心の支え?、妻対策?はこの辺りにして、それでも時間を作って頑張っている我々を代表し、僭越ながら私のプライベートを報告いたします。

4年くらい前に、入院、手術を経験したことから、15年以上に及ぶ不摂生を反省し、健康管理のため、運動することを決意しました。子供の所属していたサッカークラブの保護者が集まるフットサルチームに入れてもらいましたが、当時体重75kgの体への負担はさすがにきつく、足首、膝の故障は茶飯事で、止まれず曲がれずで壁やゴールにぶつかり、肋骨を折ったり、上腕、手首を負傷したりすることもありました。1年半ほど経った頃、諸悪の根源と思われる“体中に付いた贅肉”を、筋肉トレーニングと食餌改善によって落とすことを決意しました。2年ほどかけて、現在の60kg程度まで減量し、6か月ほどキープしています。筋肉



トレーニングは、週に2、3回、1時間位ずつ行い、腹筋、背筋、腕立て伏せなどの他、少し前に話題にもなった体幹トレーニングなどを行っています。テレビを見ながら、音楽を聴きながら、最初は、腹筋など5回ずつできればよい方でしたが、徐々に回数を上げ、今では、連続40回ずつ行っています。(最初から無理をしては駄目です。また、最初はスポーツクラブのトレーナーなどに正しい方法を教えてもらう方がいいと思います。)また、体幹トレーニングは、『長友佑都の体幹トレーニング』シリーズの本を見ながら行っております。そして食事ですが、これも私の場合ですが、白飯を半分の量に、間食をほとんど無くすことで一日に摂取するカロリー量を減らしました。体重は、週に2、3度、お風呂上りに測ります。これをトレーニングの種類と回数(時間)、食べたもの等と共に記録しています。

体重を減らし、筋肉量を増やすと、基礎代謝量^{*1}が増えるので、以前と同じ量を食べても太らなくなりました。あと、アルコールの分解機能にも寄与するようで、酔いのまわりはともかく、次の日の朝が相当楽になりました。また、ここ2年間、職場の健康診断書から星印(標準値範囲外の印)が無くなりました。また、フットサルでも、日常生活でも、最初の一步と、最後の一步が以前より“出る”ようになり、持久力もUPしたと思います。お仕事でも、増強された出だしの速さと粘り、しぶとさをいろいろな場面で生かしております。(つもりです。)

最近、これに気をよくして始めたのが、マラソンです。先日、膝や足首に不安を抱えつつも地元の河内長野シティマラソン(ハーフ)に初めて挑戦し、完走を果たしました。お天気が良く、田舎の街並

みを抜けて滝畑ダムまでを往復の山道コースなので、アップダウンは険しいものの、とても気持ちよく走ることができました。また、まちおこしの一環として長い歴史を持つ大会で、沿道からの応援や、ゴール後のお接待（マッサージやとん汁など）などのおもてなしが充実しており、完走できたことと合わせて二重の喜びを頂きました。来年も出場するため、今年一年、運動とそして健康管理（≒体重

管理?）を継続しようと思っております。

我々は、卒業してから20年間、特に後半の10年間、血気盛んで、体力があふれ、仕事の場でも、家庭でも、地域においても頼りにされ、おそらく自らの身体をあまり顧みずに、全力で突っ走ってきたかと思います。これからさらに、仕事の場でも、家庭でも、地域でも、責任と我々が果たすべき役割の重要性が増すものと思われまふ。厄年を乗り越えはした

ものの、これからも、自らのため、また我々を必要とする家族や社会のためにも、しっかりと健康管理に努めようではありませんか。

写真は、昨年8月17日、小2（当時）の子供と挑戦した富士山登頂時のものです。これも、私の健康管理の一環です。

※1 生命活動を維持するために生体で自動的に（生理的に）行われている活動に必要なエネルギー量（計算方法は、下記URL参照。）
http://www.kintore.info/kisotaisya_mass/

事務局より

会員名簿について

昨年度、都市会会員名簿を個人情報保護の観点から氏名と会社名だけを記載した卒業生名簿として発行いたしました。名簿中に不備や間違いなどが多々ありましたことを事務局としてお詫び申し上げます。

会員の皆様からは「大阪市、神戸市、近鉄の職場班の会員の名前が勤務先別に無い。」「自宅住所が載っていない名簿は意味が無い。不必要だ。」「卒業生がどのような企業で活躍しているか興味深かった。」「名簿が発行されて良かった。」などのご意見を戴きました。

平成26年11月末現在の正会員2,272名の内、自宅住所の不明な会員数が約289名と約13%にもなっております。また、昨年宛先不明で返送されてくるのが77通ありました。

各方面の方々に名簿の調査をお願いし、相当数の卒業生名簿を整備することができました。関係者の皆様のご協力にお礼申し上げます。

会員情報の充実のため、勤務先や自宅住所などの変更がございましたら、ホームページからの変更又はメールやファッ

クスなどでご連絡をお願い致します。

今後は、名簿の発行についてご意見を頂き、ホームページ上での掲載やDVDなどの電子ファイルでの提供などを検討してまいります。

会費納入のお願い

昨年の12月に新「都市会」が発足して初めての会費納入をお願い致しました。その結果平成27年5月末現在までに345名の方々から会費納入がございました。また、その内25名の方から終身会費を納入頂きました。

会費を納入戴いた皆様方には篤くお礼申し上げます。

しかしながら、正会員（終身会員除く）1,984名ですので納入率は17%にすぎません。このような状態が続きますと都市会の活動・運営に支障を来して参ります。年会費は2,000円ですが、積もり積もると多額な金額になってまいりますので、お早めの納入をお願いします。また、多額になった場合、分割の納入でも結構です。（そのために納入書の金額欄は空白しております。）

定年退職を迎えた方など、一括納入に

より終身会員とされることをお勧めします。納入額は会則（昨年の会員名簿やホームページにごぞいます）を参照下さい。

メールアドレス登録のお願い

これからの都市会に関わる様々な行事案内や訃報などの連絡としてメールを活用していきたいと思っております。

既にご登録頂いている方は必要ございませんが、まだ未登録の方は、次のメール又は同封の返信用葉書でご連絡下さるようお願い申し上げます。

都市会メールアドレス：

alumni@urban.eng.osaka-cu.ac.jp

編集後記

「都市会」が発足して10ヶ月が経ちました。新しい同窓会の活動を考えて行かねばならないと考えております。会員皆様の多くのご意見・ご指導を頂きたいと存じます。また会員交流会や学生支援の具体的な提案があればどしどし事務局へお願い申し上げます。

平成27年度都市会東京支部総会 開催のお知らせ

平成27年度も、11月18日（水）【土木の日】に、アリス・アクアガーデン品川で開催します。品川駅まで徒歩3分で新幹線への便もよいので、出張等で上京の方もぜひご参加ください。

なお、参加費は新卒の方は無料、卒業10年未満の方および60歳以上の方は3000円としておりますので、奮ってご参加ください。

また、転勤等で関東地区に異動になられた方は、東京支部幹事までご連絡ください。

大阪市立大学都市会東京支部
幹事：今井一彦（S.54卒）
（株）建設技術研究所 東京本社
E-mail:kz-imai@ctie.co.jp

平成27年度都市会総会・懇親会のお知らせ

平成27年度都市会 評議員会・総会・懇親会を次の要領にて開催致します。会員各位におかれましてはご多忙とは存じますが、都市会発展と活性化のため多数の方々のご参加をお願い致します。

(1) 日 時 平成27年7月4日（土）
評議員会 午後4：00～4：30
総 会 午後4：30～5：00
懇 親 会 午後5：00～7：00

(2) 場 所 大阪弥生会館 2階
評議員会・総会は「伊吹の間」
懇親会は「六甲の間」
TEL：06-6373-1841 大阪市北区芝田2-4-53
JR大阪駅、阪急、地下鉄梅田駅から徒歩5分

(3) 会 費 6,000円